

ふれあい

2022

11

No.428

牛久愛和総合病院 広報誌



形成外科のご紹介

形成外科 部長 平野 由美



整形外科と名前が似ているので、整形外科もできて傷も治療する科と思われている患者さんが多い気がしますが、科の根本的な概念や治療内容は全く異なります。どちらかというとと美容外科に近くなります。

生まれつき、または事故などで失った部分を再建し、元に戻してあげようというのが形成外科で、元々正常な体より良くしようとするのが美容外科です。最近は美容整形ではなく、美容形成と表記しているクリニックも多いです。

日本の形成外科は戦後に発足し、独立した診療科になりました。なので、知らない患者さんが多いのは当たり前です。それまでは、例えば顔の形成手術は耳鼻科、眼科、皮膚科、口腔外科などが担当していました。発足要因はいろいろありましたが、一つ有名どころで、広島、長崎に落とされた原爆による若い女性の顔面やけどの傷跡の治療です。当初は原爆ガールとしてアメリカまで行き、形成外科医の手術を受けていましたが、日本人医師をアメリカで育てて日本で治療ができたという考えになりました。若い女性の顔を元に戻すような治療が必要になってくるので、他の部分から皮膚を取って移植する（皮膚移植術）、筋肉脂肪まで必要になると、皮膚・脂肪・筋肉などを他の部分から持つてくる（皮弁術）、傷跡をできるだけ縫い目がわからなように縫合する、などを専門的にやっつけていこうとしたのが形成外科です。

体の外から見える部分（主に皮膚）の外科治療を行う上で、最低限必要になってくるのは、如何に目立たなくさせるかです。そのために縫合法はもちろん、縫合した部分の治療経過の知識も必要で、傷や傷跡の治療も治療範囲に入ります。

当院では、傷や傷跡、皮膚潰瘍、床ずれの治療、皮膚・皮下腫瘍の手術（注：皮膚科は皮膚病を診察する科で、外科治療を主としていません。皮膚腫瘍や皮下腫瘍などは、外科治療のできる当科に依頼し手術を行います。ですが皮膚外科と思われ、皮膚病のことを聞かれることも多いですが専門外です）、顔面骨折の手術（注：顔以外は整形外科）、やけど（注：手術が必要なやけどを傷跡まで診ていきます。）を主に治療しています。最近では、傷の治療ができることから、糖尿病性壊疽、重症虚血肢などの患者さんも多くなってきました。患者さんはあまり形成外科のことを知りませんから紹介されて受診するのがほとんどです。治療範囲が広いので少しでも知っていただけたら幸いです。



身体の「コリ」「ハリ」

整形外科 部長 谷口 浩人

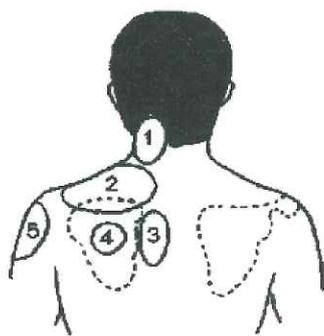


肩コリ、などよく言われますが、「コリ」とは、筋肉が疲勞し血行が十分に行き届かなくなる状況に至ると生じる状態、とされています。

厚生労働省国民生活基礎調査(平成16年)によると、肩こりは女性が訴える症状の第1位で、1000名中123名とされており、男性でも58・1名と第2位となっています。原因の1つとしては、頭部および上肢(腕)を支えている肩甲骨の周りの筋肉の疲労が関与する、とされます。ヒトは4kg以上の重さのある頭部と上肢(腕)を支えるために、頸から肩甲骨の周りの筋肉には、常に負荷がかかっていることにより起こると考えられています。ただ肩こりの原因は時として、整形外科の病気だけではなく、内科や耳鼻科、眼科、歯科などの診療科の疾患に関係していることもあるのです。

そもそも、肩コリとは？

少し前になりますが、平成20



肩こりの対処法ですが、先に触れましたように頭や腕の重み

年に整形外科の学会で、「肩こりの定義」なる研究と調査が行われました。それによると、「肩こり」の定義、並びに「肩こり」がおこる身体の場所に関して、はっきりした統一見解がまだ十分に定まっていない、としながらも、「頸より肩甲骨にかけての筋緊張感(コリ感)、重圧感、および鈍痛などを総称」とおおよその定義を示しています。言葉が少々難しいですが、図の②を中心とした①〜④に示すような場所に生じる痛みを指している、ということでしょう。(⑤は肩コリというよりは、五十肩の症状です)

でなること以外に、整形外科以外の病気が原因でなることもあり、要因にはさまざまな「可能性」は存在しますので、時には対処法が異なることもあり、通常は、生活環境、動作や姿勢などが原因です。普通の場合の改善方法は、姿勢の改善や、背中の筋肉の張りを自力か、もしくは他力でほぐすようにすること、が基本です。薬による改善法もありますし、必ずしも「病院・クリニック」を受診されなくても、治る場合も多々あると思います。

決して多いわけではありませんが、病院でしかできない治療が必要とされることもあり、整形外科への受診が大切です。単に「調子が悪い」だけ、つまり身体の構造上や機能上の問題がなく、それを整えれば様子を見ていける疾患なのか、または身体の構造自体やそれらを動かすための神経やスジに問題がある、いわば身体が「壊れている」状態なのか、の判別には、病院を受診した方がよい、ということをおひとつご理解ください。ただし、全ての病状が病院に来れば、必ずはっきり診断がつく、という訳ではないので、その点にもご留意ください。

ただし、少し気をつけておきたいことは、先に述べました「ほかの病気の可能性」について、を確かめないとならない場合があります。いくら身体をほぐしても、効き目が合わない場合や、手に何か異常を及ぼすような症状の際には、整形外科への相談対象とを考えていただくと良いと思います。病院に受診したことがきっかけで、背骨や肩の関節の骨格的な異常や病氣、経年変化、などが指摘されたりと、「骨、関節、神経の病氣」があることがわかり、通常のようにほぐそうと、柔軟運動することは、かえってよくないという場合も時にはあります。そのような例は

股関節の柔軟性不足、などが要因で、膝に痛みが出ているケースも見受けられるのです。そのように、身体の箇所、箇所が関連しあって、痛みを生じる「運動連鎖」というものから痛みを生じることもあり、いくら薬を飲んだり、膝に注射を受けても、症状が改善しない(変わらない)、といった場合もあります。そのような際には、通常の飲み薬、注射などの薬剤治療や手術ではなく、ストレッチ主体としてリハビリテーション的な治療が効果的な場合もあります。また、人工関節などの手術を受けた後でも痛みが残っている、というケースもあるかと思

います。その場合でも、膝以外の場所からの要因などで、膝の周りのコリやハリのために痛みが出ていることもあります。そのような悩みをお抱えの場合も、一度ご相談ください。

肩ただけでなく、腰や膝、スネの筋肉などにも、そのような「コリ」の兆候は生じます。例にとりますと、膝に関して、もう年相応にすり減ってしまった、痛みが取れない、と思込込んで受診される方も時折見受けられます。しかし線やその他の検査をしてみますと、実際にはご本人が思っているよりも、はるかに、あまり年齢変化が現れていないケースもあります。そのような場合、直接膝ではなく、

腿の筋肉の「コリ」や「ハリ」、

何かしらの大病などがないか、を見極めて、しっかり治療を行え、健康増進に貢献できるように、整形外科が皆様のお役に立てれば幸いです。思いながら、日々治療に邁進しております。

春秋園だより

朝や晩の冷え込みが厳しくなってきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？利用者様を迎えに行つたとき、厚着の方が増えてきているのを見ると、秋の深まりを感じます。

通所リハビリでは、コロナ禍でも利用者様に少しでも楽しんでいただけるように職員一同が心を込めて、さまざまな季節の行事を催してまいりました。

8月の夏祭りでは、手作業のレクリエーションで作った、色とりどりの折り紙のちょうちんをパーティーションにつけたり、天井に赤い大きなちょうちんをぶら下げたりして、祭りの雰囲気を楽しみました。

また、レクリエーションの時間を使って行つた「うちわでポ



ンポンゲーム」は、利用者様に好評で、普段レクリエーションに参加されない利用者様も職員からうちわを受け取り、楽しそうにゲームに参加されていました。

9月に行つた敬老会では、19日から24日にかけてご長寿の方への表彰式を行い、普段よりもちよつとリッチで特別なお菓子をとお出しし、楽しんでいただきました。

練り切りや、きな粉やしあん、黒ゴマ等で味付けしたおはぎをお出しすると、いつもと違つたおやつに喜んで利用される方もいらつしやう、新鮮な雰囲気を感じられました。

これから肌寒い日が増え、体調管理にも気をつかう季節となつてきましたが、通所リハビリを利用する方一人ひとりに合わせたリハビリや日常生活の支援はもちろんです、皆さんの利用者様に楽しんでいただくレクリエーションの企画やおやつ等、職員一同、力を合わせ、頑張つて行きたいと思ひます。

(通所リハビリスタッフ一同)

部署紹介

言語聴覚士

副主任 松本 佳之

皆さんは、「ことば」に関わりハビリがあるのをご存知でしょうか？

リハビリがあるのをご存知でしょうか？

イメージのしにくい分野ではありますが、リハビリ部門には「言語聴覚療法」と呼ばれる「ことば」に関わりハビリを行う部署があり「言語聴覚士（ST）」が担当しております。言語や発声・発語といった言葉によるコミュニケーションはもろろんのこと、注意や記憶・認知機能といった高次脳機能、食べたり飲

んだりといった摂食・嚥下機能などの障害に対するリハビリを行っているんです。また、成人の方だけでなく、発達障害などの小児に対する評価・検査も行っています。

現在、8名の言語聴覚士が在籍しており、医師の指示の下で機能回復練習・個別練習を実施しています。STのリハビリを行う事で、楽しくお話ができ、食事がおいしく食べられるよう日々取り組んでおります。また、機能回復練習とあわせて、残存する機能での代償手段の獲得や食事内容・介助方法の指導など、患者様の退院後の生活を視野に入れた支援も行っています。



見た目では症状が分かりにくいことから、周囲の理解を得られずに苦労をされたり、これからの生活に不安を抱えられているケースを多くお見受けします。患者様が自分らしい生活を再構築できるよう、今後も皆様のお役に立てるリハビリの提供に努めてまいります。

入職者

- ①担当 ②専門とその紹介 ③出身大学
- ④趣味 ⑤生年月日 ⑥血液型 ⑦星座

10月1日付

腎臓内科 石井 知子

①月曜日・木曜日

②医師になって十年間、筑波大関連で心臓血管外科のはしぐれをしていきましたが、今回心臓一転腎臓内科で一から勉強させて頂きます。

- ③富山大学 ④釣り ⑤昭和61年
- 10月15日 36歳 ⑥O型 ⑦てんびん座

救急医療科 海澤 安友未

①月・火・木・土曜日

②今年十月一日より救急医療科で勤務させていただくことになりました。患者さんやご家族により良い医療を提供し、地域医療に貢献して参ります。

- ③東京医科大学 ④映画鑑賞 ⑤平成6年12月24日 28歳 ⑥A型
- ⑦いて座

10月16日付

地域医療連携室

事務 鈴木 友文

職員の皆様と共働し、働きやす

い職場づくりに貢献していきたいと思ひます。

保育課

保育補助 長濱 楓夏

子ども達と関わる仕事を通して保育士になりたいという夢を叶えます。

春秋園

ケアサービス部

施設補助 泉 みゆき

確実に仕事を覚えると共に、皆様方と報告・連絡・相談も忘れずに連携して仕事に努めていきたいです。

グランヴィラ牛久

介護主任 大川 洋平

当施設は、全個室・ユニット型特別養護老人ホームです。入所定員は80名（内訳は特養70名、ショート10名）です。

ご利用にあたっては、これまでの生活を継続するために、入居者様・ご家族様の思いをうけ、その方のあったケアプランに沿って日常生活に必要な援助サービスに取り組んでいます。

年間行事は、皆様に四季を感じ楽しんでいただくために新年はお屠蘇で始まり、春は雛祭り、お花見、夏は納涼祭、秋は敬老会、冬はクリスマス会等を催します。各ユニットでは毎月の誕生会や、入居者様と作るたこ焼き・お好み焼きパーティー等を行い家にいるような居心地の良い生活を目指しサポートしています。

また、コロナ禍で面会制限の中で、ご家族も入居者様の大好物を手作りして持参してく

「念である」「入居者様お一人お一人のサービス計画に基づいて、家庭的な雰囲気の中で必要な支援」を行います。



編集だより

朝晩だいぶ冷え込んできました。山地での紅葉はほとんど終わってしまいましたが、平地はまだこれからです。小春日和の穏やかな日は紅葉狩りにでかけるのはいかがでしょうか？ (S・S)

病院理念

我々は医療全般は基より、3つの柱「救急医療」「予防医療」「高齢者医療」を通じて地域住民の皆様に最高の医療・福祉を提供すると共に、職員一同自己研鑽に励みます。

病院概要

病床数 489床 (一般391床 医療療養型55床 地域包括ケア43床)

施設

敷地 59,449.60㎡ 駐車場 1151台



日本医療機能評価機構認定病院
医療法人社団 常仁会

救急 24時間

牛久愛和総合病院

〒300-1296 茨城県牛久市猪子町896番地
Tel 029-873-3111 Fax 029-874-1031
ホームページ <http://www.joinkai.com>

《関連施設》

- 総合健診センター Tel 029-873-4334
- 健康増進施設 スポーツリラクス Tel 029-874-8791
- 人工透析センター
- 地域リハ・ステーション
- 介護老人保健施設 春秋園 Tel 029-870-3100
- ひたち野ステーションクリニック Tel 029-896-6200
- 特別養護老人ホーム グランヴィラ牛久 Tel 029-817-5111

診療科目

【一般外来】

内科、消化器内科、循環器内科、心臓血管外科、血液内科、腎臓内科、脳神経内科、呼吸器内科、糖尿病・代謝内科、リウマチ・膠原病内科、小児科、眼科、泌尿器科、皮膚科、整形外科、脳神経外科、形成外科、救急科、外科、乳腺外科、消化器外科、耳鼻咽喉科、産婦人科、歯科口腔外科、甲状腺・内分泌外科

【専門外来】

内科 (禁煙外来)
整形外科 (股関節、脊椎、スポーツ、肩関節、膝関節)
小児科 (小児循環器、小児心理、小児免疫)
皮膚科 (レーザー外来)
外科 (下肢静脈瘤外来)
ストーマ外来
そけいヘルニア専門外来
透析外来
内視鏡検査
検診検査 (乳がん検診)

